◆漁業士活用育成事業

平成15年度漁業士九州ブロック研修会

城　間　一　仁

1．日時

平成15年9月8日（月）13：00～17：00

9月9日（火）　9：00～12：00

2．場所

鹿児島県市町村自治会館　403号室

3．参加者

伊平屋村漁協　諸見富男青年漁業士

久米島漁協　　仲与志勇青年漁業士

水産試験場普及センター　城間一仁　他48名

4．内容

(1)開催県あいさつ

鹿児島県林務水産部次長　津留氏

漁業士は漁村文化の担い手として重要であり、漁村活性化のリーダーとして期待する。

(2)水産庁あいさつ

研究指導課課長補佐　岡本氏

漁業士は浜のリーダーとして新しい施策の円滑な推進に貢献しており、漁業者の理想な姿として頑張って欲しい。

(3)漁村活性化の取り組みについて

鹿児島大学水産学部　助教授　佐久間氏

漁業管理や環境保全活動の取り組みを地域として発信することが商品の差別化につながり、流通革命によって産地を伝えることが出来る。また、販売、観光漁業、イベントなどの他、海浜清掃や資源管理型漁業、漁場整備等の様々な活動が横の繋がりもなく、内向きに行われる傾向があるため、地域の人々や顧客も巻き込んだ形で行えるように出来れば漁村の活性化に繋がるのではないか。消費者対応への意識改革が出来ている漁村は少なく、組織的に消費者のことを考えて行動し、高品質のサービスを提供し続ければ怖いもの無しである。

漁業士主導で魅せる漁業への転換をして欲しい。

(4)パネルディスカッション

テーマ：地域の漁村活性化の取組

コーディネーター：鹿児島大　佐久間氏

●パネラー：福岡県　古賀祐哲

子供の頃から本物のノリの味を知ってもらうため、地元のノリの各種ＰＲを行ったり、漁協女性部において生ノリを使用した佃煮の製品化、都心部在住の女性を招いた独身漁業者との交流会を開催している。

●パネラー：佐賀県　小池勇一

目前にある有明海で採れた魚介類を「まえうみもん」と呼び、地元での消費拡大を目的とした「まえうみもん祭り」を年1回開催。全県から婦人部。・青年部の有志が集まり県庁所在地でイベント（朝市）をする全国でも希な例であり、約1000人の参加がある。

●パネラー：長崎県　川添　繋

大村湾ではシャコが多獲されるが、地元での消費が少ないため「シャコまつり」と題した魚食普及イベントを昨年から年1回開催している。型のいいシャコは値がよいが、小さなシャコは安値であるため、県総合試験場の協力で加工方法を工夫し、価格向上に努めている。

●パネラー：熊本県　川崎幸夫

地元の小学校と保護者に地元で獲れた魚を料理し食べてもらうことにより、地元漁業への理解を深めさせ、地元のおいしさをＰＲするため、「おしかけ料理教室」を2年間に4回、漁業士会の予算で実施した。マスコミや各機関に取り上げられ、希望依頼が舞い込み、継続実施している。今後、地元漁協等を巻き込んで実施したい。

魚食普及はただという流れがあり予算的に厳しい。これからはペイできるように出来ないか市町村や学校の予算で考慮中。

●パネラー：大分県　神田勝之

地元中学校の意向もあり、地域密着型の様々な水産教室を実施している他、資源の激減しているアワビについて様々な増殖の取組を行っている。また、市が、事業主体となって都市間交流の一環である漁業体験を実施予定である。

●パネラー：宮崎県　赤沢サミ

漁家生活の改善や後継者育成等の地域活動リーダーを漁村女性指導士として認定し、現在10名が県内各地で付加価値向上や魚食普及、飲食店や直売店の経営等の活動を行っている。女性指導士が中心となって漁協女性部活動を活性化している。

●パネラー：沖縄県　諸見富男

「海の学校」の事例報告を行った。後に発表全文を紹介する。

●パネラー：鹿児島県　古川秀記

平成2年より漁協青壮年部活動の一環として近隣の女性を招き、様々な花嫁対策事業を実施。これまで7組の縁談がまとまり、青壮年部の約2割が交流会において伴侶を得ており、地域の活性化とともに青壮年部の団結力にもつながる。

(5)今後の担い手対策（中核的漁業者協業体の育成等）について

水産庁研究指導課　岡本光正課長補佐

まず、中核的漁業者協業体等取組支援事業について目的や対象、手続から審査・採択までのながれなどについて説明があった。そのなかで、平成15年度より漁協女性部員が中心となった起業的な活動を行うグループが実施する水産物の加工・販売等の取り組みについても助成対象となっている。その後、認定状況や取り組みの事例について報告があり、漁村女性起業化グループ3件を含めた76件が認定されており、そのうちの51％に漁業士が関わっていることや、協業体の取り組み事例について多角化、付加価値、新技術、省力化の大きく4つに分類し、事例報告等がなされた。

(6)各県漁業士活動状況及び予算

(7)平成16年度九州ブロック漁業士研修会開催予定県　熊本県

◎パネルディスカッション

テーマ　：地域の漁村活性化の取組

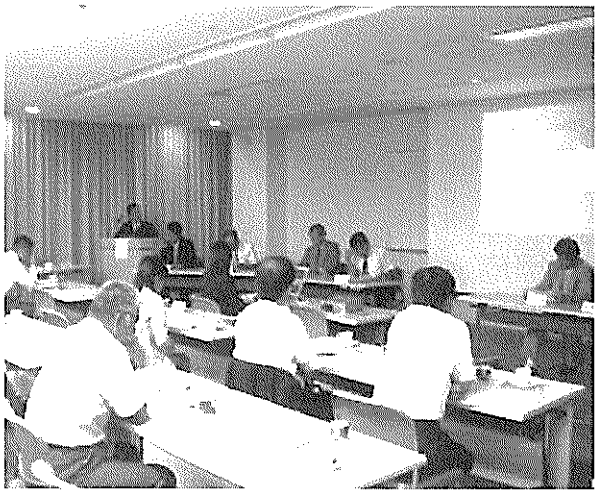
パネラー：沖縄県　諸見富男

・要　旨

私の住む伊平屋村は、沖縄県の最北端に位置する人口1,600名余の小さな島です。伊平屋村漁業協同組合は正組合員43名、准組合員52名の合計95名で構成され、漁業形態として主にモズク養殖業を中心に矛突漁業、一本釣漁業、採貝漁業が行われています。

私たちの漁協は、正組合員の7割がモズク養殖漁業で生計を立て、その収入は県全体のモズク生産量に大きく左右されます。つまり、モズクの生産量が多いほど単価が下がり、生計を立ててゆくことが困難になるのです。そういった苦難に幾度となく直面し、考えた結果が遊魚部

会を結成して作られた観光・滞在型体験漁業「海の学校」です。海の学校は1996年当初はダイビング中心のマリンスポーツ主体でしたが、それだけでは申込者数が限られるため、家族全体で参加し易い体験漁業に1998年頃から移行し、現在に至っています。一般の体験希望者の他、修学旅行生も対象としており、伊平屋校ではスノーケリング教室や追い込み漁等の体験漁業教室を遊漁部会が指導して実施しており、先祖から受け継いできた事を生かし、「自分探し」と「自分磨き」を楽しみながら無理のない範囲で頑張って頂くことを特徴としています。漁業者としては、海の学校の先生をするより漁をした方が収入が多いのが実態です。しかし、資源が減少してゆくであろう将来のことを考えると皆でこぞって漁をするより漁船漁業、養殖漁業、観光漁業といった複合的な漁業への移行が望まれる時期であると考えられます。観光漁業をするにあたり、守るべきものは自然であり海であります。その沖縄の海も近年オニヒトデの異常発生によるサンゴ礁の危機、赤土問題、海洋汚染等多様な問題を抱えています。これら諸問題ををクリアーすることにより、漁場保全や我々の生活の安定が図れるのではないでしょうか。



パネルディスカッション風景

事例報告をする諸見青年漁業士

研修会に集まった漁業士の皆さん

真剣に講習を受ける仲与志・諸見青年漁業士

◆漁業士研修事業

大分県の漁業士活動について

牧　野　清　人

1．目的

沖縄県における漁業士会は、地域漁業の振興、漁業後継者育成についての助言、指導等を通じ、漁村の活性化に寄与することを目的とし、後継者の育成指導、研修及び講習会の開催、情報交換、生産技術の改良等への協力を行っている。しかしながら、漁業者の高齢化は止まることを知らず、また、不況の影響による魚価の落ち込みなどにより、後継者不足の問題や漁業者同士の結束力の弱さが露呈しており、目的達成にほど遠いのが現状である。そこで漁業士研修事業の一環として、大分県漁業士連絡協議会通常総会に参加させていただき、情報交換を行うとともに、今後の沖縄県漁業士会活動を活性化させるための参考とさせていただいた。

2．交流先

大分県漁業士連絡協議会

3．協力

大分県林業水産部水産振興課
大分県海洋水産研究センター
大分県東国東地方振興局
大分県漁業協同組合国東支店

4．日程

平成16年3月12日（金）～14日（日）

5．参加者

伊江漁協　　宮里義高指導漁業士
沖縄市漁協　小嶺仁青年漁業士
八重山漁協　池田元指導漁業士
引率：沖縄県水産試験場普及センター本部
　　駐在　　牧野清人普及員

6．交流内容

引率の普及員を含む4名は3月12日に大分空港から別府市へ移動し、ツルミ荘へ宿泊した。翌日早朝に大分県海洋水産研究センターの岡本研究員の案内で大分県漁業協同組合日出支店のセリを視察した。岡本研究員の話によると、大分県は平成14年に一県一漁協となり、1漁協27支店での運営となっている。かつての組合長の役割を支店運営委員長が行い、理事が運営委員となっている。また、参事の役割を支店長が担っているとのことであった。日出支店のセリでは底引き網漁が盛んなためか、水揚げされたものはクルマエビ、カレイ等底ものが多いのが印象的であった。また、セリの仲買だけでなく周囲を一般客が取り囲み、仲買の競り落とした魚をその場で買う光景があちらこちらで見られた。続いて、大分県東国東地方振興局の中槻氏の案内で大分県漁協国東支店の平成15年11月にオープンした直販店に案内していただいた。ここでは「銀たち」ブランドでタチウオの販売促進に取り組んでおり、一尾100円程度の安価で販売し、多くの主婦が争って購入する姿が印象的であった。この直販店ではレストランや宴会場もあり、それらによる収入が利益の60％で、鮮魚販売による収入が30％とのことであった。鮮魚販売のターゲットは観光客よりむしろ近所の主婦らとしている。ここで扱っている水産物は主に延縄漁で漁獲されるタチウオの他、潜水漁業によるアワビ、サザエ、ナマコ、ウニで、安定供給のために、地元の魚がしけで上がらない冬場は別府等、他から仕入れることも多いとのことであった。その後、底引き漁船ばかりが停泊する美濃崎漁港を短時間であったが視察して、大分県漁業士連絡協議会通常総会に参加し

た。

総会は開会のことばの後、協議会会長の岩本義彦氏の挨拶、来賓挨拶、大会役員選出、総会成立宣言と続いて議事に入った。

議事では、はじめに平成15年度経過報告があった。大分県の漁業士会は1986年に発足し、現在青年漁業士102名、指導漁業士34名で構成されている。漁業士会は各専門部会に分かれており、底引き網17名、潜水11名、巻き網7名、漁船漁業25名、真珠養殖13名、魚類養殖19名、のり養殖5名となっている。また、毎月何らかの漁業士活動がなされ、年間31回の活動が行われているということであった。活動内容としては役員会及び専門部会ごとの部会、総会の他に、先進地視察、水産教室、講演会、専門部会による調査および試験、大分県水産振興祭への参加、勉強会等であった。次に、会計報告と各専門部会による活動報告がなされた。各部会の報告は以下の通りであった。

底引き網漁業部会：小型底引き網改良漁具試験操業

潜水漁業部会：水産教室、部会及び勉強会

巻き網漁業部会：山口、福岡県への先進地視察、林業水産部長を招いての勉強会、意見交換会

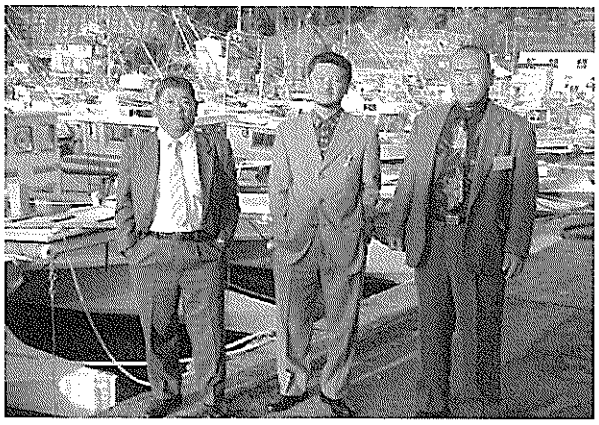
漁船漁業部会：クルマエビ出荷試験

真珠養殖業部会：先進地視察、水産振興祭にて展示・販売

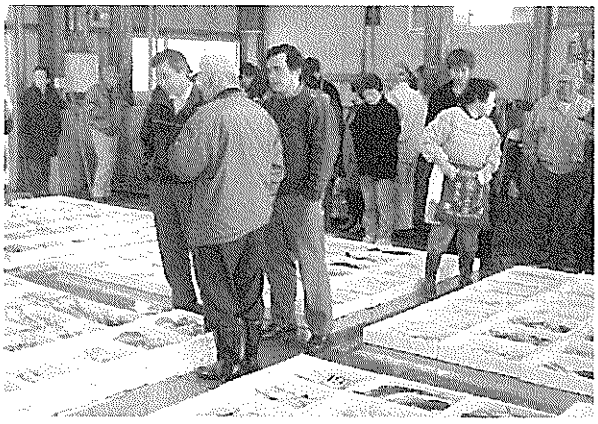
魚類養殖業部会：赤潮講習会、入津湾調査

のり養殖業部会：部会員厳選の「匠の海苔」を限定販売

各部会の報告後、平成16年度事業計画案について説明がなされた。大分県の水産業の発展に貢献するため、研修会等を開催し、資質の向上を図るとともに、積極的に各種事業を推進するという活動方針の下、総会及び役員会の開催、魚食普及活動、会誌の発行、部会調査研究活動などの計画案が出され、平成16年度予算案とともに承認された。その後、沖縄県漁業士会からの出席者紹介に続いて、「沖縄県における漁業士の活動」と題して小嶺青年漁業士から、「沖縄県における漁業の概要」と題して池田元指導漁業士から発表された。漁業士会の組織の違いや漁業や養殖業種類の異なる点に興味を多く持たれたようで、大分県の漁業士他多くの参加者から質問が出され、好評であったように思われる。総会終了後、懇親会に参加し、ツルミ荘に一泊して翌日帰路についた。



漁業士研修に参加された3名



日出支店におけるセリの様子

大分県漁協国東支店直売店での説明

漁業士連絡協議会通常総会の開会挨拶

タチウオの店頭販売の様子

専門部会による活動報告の様子

美濃崎漁港の底引き網漁船団

沖縄県における水産業の概要について
池田指導漁業士より紹介